H

新 聞

としては三つの任務に全力で **揾当することになった。政府** た。帰国してすぐこの問題を

メーンだ。

阪神大震災の時

(神戸市) 長田区では10日間

なる。

政とNGOは出来ることが異

NGOの立場で言うと、行 行政はインフラ整備が

総領事として勤務してい

毎

18 依然6人が行方不明のままだ。 カで12人が死亡し、タイなどで 日本人はタイで24人、スリラン た。外務省によると、このうち 超える死者・行方不明者を出し よると、12カ国で合計22万人を 力東海岸まで津波を引き起こ 地震はインド洋を中心にアフリ 昨年12月26日のスマトラ沖大 被災各国政府などの集計に 半年間で約9億7700万ド を呼び掛けた。 と推計している。 歴史で未曽有の災害」として、 た緊急首脳会議で「国連00年の 00万人が国内避難民になった った。国民の5%に当たる約1 (約1045億円) 月6日、ジャカルタで開かれ 国連のアナン事務総長は今年

5人が避難生活を送ることにな 行方不明者を出し、40万324 959人の死者と5563人の さかったスリランカでも、3万 億5000万元(約161 663億円)と多くを占めた。 援が計約6億2000万%(約 国別では、インドネシアに約1 被災地の現状をどう

らしい支 ネシア・アチェ州、さらにニ 月後には最大の被災地インド ランカに向かった。 被災4カ いる。大津波の翌々日、スリに伝え、役立ちたいと考えて 新たな被災地の政府や関係者 口を育成して、 木来に生かすため、防災のプ は阪神・淡路大震災の経験を 私たち(のセンター

震災の教訓を

ができたと思う。

いる。

被災地の状況は現地大使館

や身寄りのない子供を登録し も支援プラン」を立案し、親 子供たちだ。

機能して

いたのが軍の

総合病院六つのうち唯 私たちはここで手術をし

て人身取引の対象にならない

面はこれから始まろうとして 経済活動を助ける復興へ りつつある。 や緊急人道支援の局面は終わ るが、この半年弱で人命救助

磐

本格的な

まだやるべき支援は多い。

特に重要なのは未来を担う

アのバンダアチェでは、 医者が数人という場所だ。

69

いけない。

その中で最低限の やらなければ

相を呈しても、 援助というのは援助合戦の様 的にその通りだと思う。

翌27日に入ったインドネシ 人の医療従事者が死亡し

長い年月が必要ではないか。 民が完全に立ち直るには相当

チは、もともと人口10万人に

回のバンダアチェの教訓があ できるのかできないのか、 でUNHCRのような組織が

災害の時代と言われる21世

統合できなかった。

私は、

被災地救援の分野

かと思う。

国連の役割は、基本

今回は近年にない速さで援助 すか。三つ目は人的貢献だ。 として日本の知見をどう生か の資金をどう活用するか。二

つ目は、災害大国、

防災大国

現地大使館員をまだ残してい

報告を聞いているが、被災住 や国際機関から毎日のように

ようにしている。

また、 トラ

た。今も手術に必要な麻酔科

医はバンダアチェには1人だ

ある意味で競争状態に

を支えること自体、もう少

日本政府は調整メカニズク

やった方がいいのではない

か。日本の執行力は迅速で表

必要性については論をまたな 調整機能が果たされるかどう

か議論はあるが、その役割の

国際医療援助団体「AMDA」代表

菅波

茂氏

ているタイ・プーケットには

日本人の行方不明者が残っ

が強く、被災からわずか数日 治用して支援活動をしてい で国内の宗教ネットワー アス島にも出掛けた。 スリランカの人は互助精神 被災地は想像以上に落ち ークを

着いて、コミュニティーの力 認識しておく必要があると痛 も建っていない。こういうこ った。被災地の真ん中に立ち、 がプラスに働いていた。 こが起こり得るということを 360度見回しても家は一軒 アチェの被害はすさまじか

なりつつある。 う段階だと思う。これから住 はないが、復旧と復興を分け 民がやっと立ち上がる段階に ない。やっと落ち着いたとい 言葉の定義論をするつもり まだ復興には至ってい 私は発生当時、 ドイ

> 務省からの資金を得て実施す から人材育成プログラムをし

てほしいと求められ、

、日本外

つまり、

10日間で行政が水と

医療に必要なのは水と電気。 で開業医の50%が再開した。

たら、本当の意味での復旧

復興の全体状況は見えてこな

こともある。

向こうの社会は「血縁共同

まり団結力が逆に問題になる

インドネシア保健省

大学と組むということ。イン

も人材をたくさん持 大事なのは現地の

と表現した。

た。当時、フランスの医療N 電気のインフラを回復させ

をどう見るかということ。

だけ。

日本の非血縁共同体社

国連機関なり各国政府はどう

こちらから提供できる情報は 神戸から来ました」と言うと

るのは日本では基本的に沖縄

社会で、これが残ってい

それと、重要なのは被災地

務省国際社会協力部の神余隆博部長、 れに伴うインド洋大津波は、 評価や今後の支援のあり方などについて語ってもらった。 「人と防災未来センター」 死者・行方不明者22万人を超える未曽有の被害をもたらしたスマトラ冲大地霞とそ 次第に復興支援に移りつつある。それぞれの立場から支援にかかわってきた外 (神戸市) の深澤良信副センター長に、 26日に発生から半年を迎える。被災地への当初の緊急支 国際医療援助団体「AMDA」の菅波茂代表、 【司会・岸本卓也外信部長、写真・佐藤賢二郎】

(約4億円) ▽モルディブに3

>スリランカに約6000万元

てきた。

国連はその後、必要額を見直

さまざまな復興事業に充てられ

し、要請額を約1億8700万

約

63億円) に増額し

で何か提言はありますか。

国連に関して一つ問

いう側面から今後の支援活動 難しさだと思いますが、そう

方で各国政府の支援

援助達成額、国連要請の8割 00万%(約33億円)

など。

スマトラ沖大地震とインド洋大津波

を中心に12万8933人が死 は、饅源地に近いインドネシア

総額約8億7

00万% (93

億円)の国際援助や支援表明

麗後の3カ月間で、各国政府は ると、国連とその関係機関に他

3万7090人が行方不明 スマトラ島北部のアチェ州 とりわけ被害が大きかったの

国連人道問題調整事務所によ

の緊急支援

になっている。

インドネシアの次に被害が大

に対してや使途を特定しない支 をした。このうち、被災地全体

ない。ユニセフ(国連児童基 ときに仕切る一元的な組織が る。ところが、

は子供のことしかやらな

私たちが予防接種を実施

した時はユニセフと組んだ。

のではないかと思う。 在感を高めることに役立った 果、国連が再び災害問題で左 うということになり、その結 た。そして、国連中心にやる

財政的貢献をしている。だら

日本ば国連に非常に大きな

事長も兼ねる内科医。84年、岡山市に多国 籍医師団のAMDAを設立。世界28カ国に 対策や健康問題についても支 ウマなどの精神ケア、感染症 日本らしい支援を最大限やっ 援してきた。十分ではないが、

> ようにしている。 ってとりあえず手術ができるけで、日本から麻酔科医を送

して何とかしなくてはいけな 人しかいない。

る。

ないよりもダブった方が ただ、ダブりは必ず起こ

ろんそれは国連の場でやるち

それを下支えする言

国も一目置いてくれる。

もな

と

とをやって無駄が生じるこ ろんな機関が同じようなこ なった。国連の問題点は、い

晴らし

いと誇りに思うし、

外部から補強

すがなみ・しげる 医療法人アスカ会理

支部を擁する。58歳。

てきたと自負している。 争地、観光地、漁村と三つの 私たちAMDAは紛

活動を始めた。北部キリノッ らタミル人武装組織「タミル ンカでは、大津波発生当日か 建う被災地に行った。 スリラ イーラム解放のトラ(LT の支配地域でも医療 いない。自立的な能力はある。 る程にはほったらかしにして 入るから、外から言われてい NGOに加え軍隊も被災地に NGO(非政府組織) 5日遅れで入ったインドは

菅波氏

インフラ整備が不可欠だ。 いい対人サービスのためには 当てていた。しかし、本当に 動など対人サービスに焦点を GOメンバーは「神戸の奇跡」 メディアはボランティア活 の基準で見ていくか。 回の被災地はもともと発展途 上国だから、 先進国のレベ

ンフラ整備を取り上げなかっ で「復興はこうあるべきだ」 スリランカの復興状況と、 とか言うのはよくない。 スリランカは、保健、

遅

ものを見

ダアチェをどう評価するか。 先進国並みに低い。そういう の成果として乳幼児死亡率が る。でないと、現地の人は無 しっかりと決める必要があ どんな物差しで見るのかも、 インドの漁村の復興を

能力だとか、やる気がないと 的評価になってしまう。

を分かった上でないと、 る時、相手の社会の原理原則 に映ることもある。 い目を見ている、というふう 主義など)自分たちだけがい 象を受ける。一方で、 相互扶助が進んでいるとの印 を下手に見ると、ものすごく 会の物差しで血縁共同体社会

解しないと難しい面があるよ な援助もいけない。相手を理 はいけない。押し付けるよう 展途上の度合いを考えなくて 相手の文化とか社会、 国境を超えた支援

れたコミュニティー

グローバル時代の援助活動の

もう

た。そのため拠出は要請に対し 償支援を約束。同じ場で拠出を 00万が(約268億円)の無 にとどまる。 億円)足りず、達成率は約8割 て2億1600万% (約231 日本は国連の求めに対し、 1日の支援国会議で2億50

> 国連難民高等弁務官事務所 題を感じる。難民については

は十分な支援は出来ない 災害が起きた時に一国だけ グローバルな調整が必要だ。 も、ダブりが生じてくるため いという方向になっている

今回も日本、米国、カー

オランダなどが集まり

(UNHCR) が一元的に行

責任と権限が集中してい

災害が起きた

(中核) グループを結成し

の支援もしてきた。【吉富裕倫】 るなどの人的支援や、 遺し、自衛隊を輸送に当たらせ 000万がを支出。さらに医療・ に対する2国間支援でも2億5 召明した日本を含む18カ国・機 の総額7億5600万が(約 に当たる最大援助国だった。 09億円)に対し、約3分の 外務省によると、被災国政府 ムを延べ約240人派 NGO

ことが遅々として整わなく

援を行うというメカニズムを の調整の下で各国が整然と支

構築していくことは、望ま

い国際社会のあり方ではない

最初はさまざまな

支援が入り、 ダアチェに各国からいろんな き医療情報だけを出す。 WHO(世界保健機関)

多くのNGOが

してもらうのは当然だ。国

国連に大きな役割を果た

今回いろんな機関が現地に あると思う。 うことですか。 ると感じている。 ようなものが必要では、 確かにそういう面は 統合された司令塔の

巨大津波 TSUNAMI ランカに紛争地域があったか たが、バンダアチェとかスリ 要因で起きてくる難民が活動 UNHCRA 今回は自然要因だっ 本来は紛争 過ぎて、 がり、今度は次の災害に備る ればと思う。 献をもう少し見える形で出来

それから、被災の緊急時が

復旧・復興に立ちて

大国。

いう難しい問題もある。 チェから出て行かざるを得な ら入れた。ところがUNHC り切れないことがはっきりし 紛争というふうには簡単に割 たのだから出て行けと。こう らそろそろ緊急事態は終わっ かった。インドネシア政府か こり得るという状況の中で、 今回、災害は災害、 いろんなことが同時に起 3月をもってバンダア 紛争は

> 民の問題であり、その政府の くかということだ。最後は国 局、その社会をどう作って る。これを「災害のサイクル

というが、防災というのは結

問題だ。そこは当事国もしっ

支援」を少し強化してもい かり考えなくてはいけな

そうした考え方の「知知

私は被災地で「微力ながら

をいろいろな見地から議論 災戦略)という組織をジュネ ので、既にISDR 対応すべきなのか。 ープに構えている。災害問題 国連は事情を承知している (国際防 熱心に耳を傾けてくれる。神 限られているのに、皆とても

の経験を伝える取り組みが

(縁故

組織の強化を図ろうとし ある。 門家を動員するなどし、伝え に求められている。復興の専 えていく取り組みが国際社会 き合っていろいろな経験を伝 ースがある。現地に行き、向 いうものは文章にならないケ ネットとかいっても、情報と 国際的に立ち上がりつつ -タベースとかインター

やっている。むしろ、そうした 調整しようという取り組みを 機能を強化しなくてはいけな

調整官を置き、各国際機関を を強化していくことも考えて にかかわる現場に乗り込んで A(国連人道問題調整事務所) UNOCHAも災害・紛争 あるいはUNOCH

続ける取り組みが期待されて 左面につづく

00人が行方不明となっ

たか

インド洋大津波で約1

たちましたが、被災者の 心の問題は改善されまし

津波から半年近く

題になっている。被災後、 精神的なケアが大きな課 や家族を失った被災者の たインド。現地では自宅 万800人が死亡、56

体的な問題に対応するた住宅で暮らす被災者の身

の状態を悪くしている。 った不満がうっ積し、心助をもらっている」とい 族はうちよりも多くの援 えている。また「あの家 された」という不安を抱

住民の間に「海に

◆このセンターは仮設

ル地区に民間援助団体

はずだ。そういうことを日本 れが日本のメッセージである 国づくりに日本の援助を役立 することができる。街づくり、 を繰り返してしまう。

だ。「資金」「知見」、そし大いに途上国へ移転すべき お金もそうだが、ノウハウも

ててもらうことが出来る。こ

に援助を向ける必要がある。

日本は、日本の経験を移転

ち上がって復興の担い手にな

の支援国会議の前にNGOの

られた。

大きな反応と共感を得

昨年、UNHCRで

主体は人だし、結局は人が立

るわけだから、人をいろいろ

資金を無償でというのはほと リアなども大きな額を出して いるが、日本のように新たな い。日本が取れる大きなリー きな影響力を与えたに違いな く供与し、国際社会に相当大 んどない。しかも日本は素早 災害は一過性ではない。災 シップの 、ドイツ、 オーストラ

コントロールし、災害に強い 代に起きた災害の経済的損失 が途上国で起きている。 90年 年の統計で見ると、9割以上 害が起こるのは過去20年、25 いと、何度も「モグラたたき」 地域づくりをしていかな 国連推計で実に6000 途上国は災害をうまく

結論は はやっていこうとしている。 「人と防災未来センター」副センター長 阪神大震災で私たちが得た だった。助ける うところに結論は落ち着く た て「人」による貢献。こうい

良信氏 ふかさわ・よしのぶ 旧国土庁に入り、 国連人道問題局の災害救援調整官、国土交 通省国土計画局企画官などを歴任。02年か

ら現職。48歳。

深澤

頼を培う。そうした精神を相 ルを共有し、 互扶助というんだと話したと

いのは、 スト教)、コーラン(イスラ めてほとんどが血縁共同体社 だ。世界の途上国は中国を含 と、血縁共同体社会への支援 ム教)を信じる「啓典の民」 人が気をつけなければいけな する過程において、尊敬と信 方を説明した。友達を助ける のは責務だと。友達のトラブ そこで私は相互扶助の考え 一神教の聖書(キリ トラブルを回避 れる。

会議があり、アジアのNGO 大津波で「悲しみを共有する」 だと思う。日本政府は今回の ジを出すかということが重要 体社会に対してどうメッセー その上でカネを出す。メッセ だったと思う。東京タワー というメッセージを出すべき ささげるとか、ということだ。 か、閣議の前に閣僚が祈りを イルミネーションを消すと -ジのないカネは逆に警戒さ 特に啓典の民にはまず ジを送る努力をしな

ンギは日本と非常にコミュニ ケーションがあるし、親日的 ンドネシア、スリランカ、 今回の場合は、被災国のイ

な国だったからよかったが。

か、話してほしいと言われた。 が何を考えているか、アジア コミュニケーションだ。日本 の人たちはなぜ人を助けるの 国際社会で一番大切なのは 念を抱かれかねない いと、援助(の真意に)

日本が啓典の民、血縁共同

た。そして今年のサミット(主 政治の現実が出てくるという ている場面にはそういう国際 る大きなテーマだと思う。 ち日本人に突き付けられてい 持てるか、ということが私た 岸本 今回の津波被害の影 神余氏

しんよ・たかひろ 72年入省。国際連合 局軍縮課長、国連政策課長、欧州局審議官 を経て現職。大阪大教授に出向した経験も ある学識派。55歳。 の一方で、 要国首脳会議)で英国が大き を取り上げることにつながっ なテーマとしてアフリカ問題 ・ショナルな連帯という部分 「支援」にはこうしたエモ 「国際政治」とい

ところが、それがアジア地 国際政治の現実である。 治的な部分もあったからだ。 ショナルな部分に加えて、 ように援助したのは、エモー の津波でも、各国が競争する うものも作用している。今回 インドやタイは被災国だ 政

隆博氏

外務省国際社会協力部長

大きな問題意識を呼び起こし た。アフリカはどうなんだと。 欧州は複雑な気持ちになっ られていたアフリカに対する 波」と表現したように、忘れ シラク仏大統領が「静かな津 明した。 かも必要になってくる。 そういう政治の部分を、どう に回ったほどだ。災害時に、 あり)援助は必要ない」と表 調整しコントロールしていく (国家としての威信も インドは援助する側

あった教会は、津波で破仮設住宅が建ち並ぶ村に 壊されたままの姿をさら

う気持ちが出ていた。だから、

(感情的)な部分を呼び起こ

域に一気に集まったことで、

他方、今回の津波は、

と思う。

国際社会が動き、多くの基金、 になったので、さらにそうい 欧州では、自国民も多数犠牲 したことは間違いない。特に 人間としてのエモーショナル

> のは大事だ。 のあったメッセージ性という ういう意味でも、先ほど指摘 ことも忘れてはならない。 響していますか。 国際的リゾー 限定されたものではないこ 客が大勢亡くなったことも影 ことを感じさせたひとつの理 神余 岸本 グロー この津波が地域的に バルな悲劇という -トで欧米の観光 ケットのような

> > なことを感じますか。 ついて、NGOの立場でどん ローバル化時代に適応したコ

ミュニケーションのあり方に

響を踏まえ、

文化の違いやグ

ことがあるからだ。だから、

フリカに対しても同じように た。今度はそういう感情をアを出し、その点では同様だっ 欧州でも自分たちの問題とと 不明になったことだと思う。 らえている。日本人も犠牲者 由は、欧米人も多く死亡・行方

ない。

時

発する。5月中旬、 っかけで強い不安感が再 のは、現地の大使館や国際協 貢献」に変わらなければなら 力機構(JICA)、 大潮

ンジュラスのハリケーン 外協力隊員たちだ。88年のホ JICAや協力隊員が災 やしていきますか? り返し教え、 青年海

だ。テレビで津波の映像 災者にパニックを生ん っという間に広がり、 情報は携帯電話などであ で潮位が上がったという

の指導をしている。 して若者を集めて、

連れ出し「もう恐怖はな 的に津波が再び来る可能 を始めた。彼らに、科学 人に、まずトレーニング じように指導するよう求 性は極めて低いことを繰 して彼らが他の住民に同 ◆地域のリーダー的な 実際に海に

業だ。私はここで3年間 める。現在は次の段階と

葉も出来るこういう人たちが 国際貢献を盛り込むよう提案 に、災害時の現地被災地発の れている人たちの業務の中 発、貧困対策で世界に派遣さ 通訳として活躍した。社会開 付けた時、現地をよく知り言

地帯で、

毎年のように各地で

例えばイランは地震の多発

い人にも共有してもらうこと

が、あまり事実の伝承がなさ げば災害が減るわけではない 多くの人が亡くなる。語り継

企業の方がいて、現地を知り 政府ベース、民間ベース、 もうひとつ見逃せないの 世界各地の日系企業だ。 私たちが訪れたアンゴ 人脈を持ち、政府と クにも日系 のかも、とも思った。 もあるが、 いる。 船が取り残された。2500 津波で押し寄せた巨大な発電 になった住宅地の真ん中に、 れていないのではと思う。 めに後世に伝えたほうがい いの船がど ハンダアチェには、 分解して組み立てる案 に伝えたほうがいい、被害を語り継ぐた ーンと据えられて 、がれき

んで活動できればと考えてい 海外の姉妹大学とのネッ いかなくてはいけない 国際社会は意識して、 り継ぐ努力をしなくてはいけ は酷で、彼らは早く忘れたい。 とにかく私たちは後世に語 私は被災地のニアス島で、 被災者に語れというの 、語って

ある 、では今回の経験を次につなげ、では今回の経験を次につなげ 趣旨が理解してもらえず、ちはあるか」と尋ねた。質問の るために、子供に教えること ある教師に「次の災害に備え 易ではないと思った。 ててくれる意識が強いの 菅波 政府が何か対策を立

自分たちが行って迷惑を掛け 生活様式の違いから考えない うことは易しいが、根は深い。 いう意識があるのかもしれな 深澤 住民の意識啓発」 災害は貧困とつなが 神のおぼしめし、

۲ っている。 冠水した。日本が護岸工事に なハリケーンが襲い、ひどく 作りは外からの力が必要だ。 上国だ。大切なのは語り継ぎ 80年代にモルディブを大き 災害に強い街作りだ。 被災地の9割が途

かかわる余地がある。もちろ 今回の災害でほとんど被害は いと災害は繰り返す。 り組む必要がある。 トナーシップを大切にして取私たちの知恵を合わせ、パー てはだめ。ここに国際社会が 形態のライフスタイルを続け なかった。貧困だからと同じ 尽力したため、モルディブは てはいけない。彼らの意思と、 ん彼らの主体を大切にしなく そうでな

のはいらないという意見も出 も建築費が高くなる。 を作ろうとすると、どうして るを得ないということを伝え だ。教訓から学べばそうせざ しかし頑丈な建物は必要 地震に耐えうる建物 高いも

うではなく「被災地発の国際 る傾向がある。これからはそ 際貢献」ということに注目す 徴でもあるが、「日本発の国 菅波 日本のメディアの特 被災地で一番の主役になる

バングラデシュで日

施設の

の後遺 症も 全を確かめずにはいられ とを怖がるなど、心理的 を見るだけで、家族の安 な後遺症は生活再建に深 漁師が海へ出るこ

対する恐怖」が依然強く

人でも、極めて単純なき 際に被災した人以外には 残っています。 かったのだろう。一見、 想像もできないほど大き ◆津波のショックは実

す。被災者の心をどう癒

ざん(60)に聞いた。 ウンセラー、アマラドス の相談」に当たる心理力 ターで、被災住民の「心 などが開設した医療セン 南部タミルナド州カダロ

【西尾英之、写真も】

し、住民は「独り取り残 政府やNGOによる大規 を訴えてくる人がいる。 を経てもなお新たに不安 住民が多かった。 5カ月 は精神的な問題を訴える め開設されたが、実際に

模な援助活動が一段落

は被災者の心のケアに当 しとても時間がかかる作

深澤氏 そして私たちのようなNGO コネクションがあった。 ラにもモザンビー ら協力を得ることができた 私たちの活動は現地の大学か 今回感じたのは大学の力だ。 間以内に入り、より多くの人 る。そうすれば被災地に24時 が有機的にネットワークを組 トワークも活用できると思 を救えるのではないか。また、

巨大津波 TSUNAMI 災地の負担として受け止めた 確保や食べ物の手配など、

被 種の戸惑いを覚えた。通訳の 各国からの支援を受け、 ってきた。阪神大震災の時、 て何ができるのだろう」と思 度に心の底では「自分が行っ 海外の被災地に行く

しつ ているのではないかと。 とがある。 何となく見えてきたこ

ひとごととは思えないと相手 微力ながら手応えを感じてい るということを伝えるのに、 我がこととして受け止めてい に伝えていくということだ。 こと、特に神戸市民として、 痛みを共有しているという

ライドがある、という点だ。 相互扶助の立場から必要なこ と言っている。 ました。だから今回来ましたし 要だ。私たちは出掛けた先で う気を付けることは絶対に必 相手のメンツをつぶさないよ イドがあることを踏まえて、 「神戸の時にはお世話になり その関連で大事なこ 相手にもプラ

助けてもらった時は温かい思 ちを味わったのか。どんなに のか。その過程でどんな気持 な復興のプロセスをたどった どんな支援をもらって、どん が神戸の震災にどう対処し、 各国の政策を動かす。私たち う。その体験が金を動かし つらい思い、悔しい思いをし、 して考えることが大切だと思 深澤 災害を自分のことと

いをしたのか。こうしたこと ばよい る。 をどう造るかアドバイスすれ 所兼シェルターを見た。 本が出資した2階建ての集会 ように、金を出す時に、